

## 決算補足説明資料

## 2024年度 第2四半期 業績概要

## 注意事項

- 2024年度より、これまでシステムエンジニアリング事業に含めていた太陽光発電用パワーコンディショナ関連の情報を、モーションコントロール事業に移行するセグメント区分の見直しを行います。これにより、2024年度の数値は変更後の情報に組み替えた上で算出しています。なお、2023年度の数値についても変更後の情報にて表示しています。（P21参照）
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2024年3月1日～2024年8月31日)

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算説明会にご参加いただき  
ありがとうございます。

2024年度 第2四半期の業績概要について、ご説明いたします。

まずはじめに、資料表紙に記載していますが、今年度よりセグメント区分の  
見直しを行っています。

これにより、2024年度・2023年度の数値は、変更後の情報に組み替えた上で算出しています。  
詳細につきましては21ページをご参照ください。

それでは4ページにお進みください。

## 1. 2024年度 上期 連結業績

- 2024年度 上期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2024年度 上期における取り組み

## 2. 2024年度 通期 連結業績見通し

- 2024年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析
- 2024年度 下期における取り組み
- 株主還元 (配当金推移)

## 3. 参考資料

- セグメント区分変更による組替表示
- 設備投資・研究開発費,為替レート・感応度
- B/S構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

# セグメント別事業概要

## モーションコントロール

### 【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
  - ・ リニアサーボ
  - ・ インバータ
  - ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
  - ・ PMモータ
- など



## ロボット

### 【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
    - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
    - FPD搬送・ハンドリング用途向け
  - ・ 半導体製造装置用ロボット
  - ・ バイオメディカル用途向けロボット
  - ・ 人協働ロボット
- など



## システム エンジニアリング

### 【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
  - ・ 上下水道用電気計装システム
- など



## その他

- ・ 物流サービス
- など

**YASKAWA**

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

2

<スキップ>

# 1. 2024年度 上期 連結業績

- ・高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ減収
- ・間接費を抑制も、売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益

	2024年度	2023年度	前年同期比	
	上期 実績	上期 実績	増減額	増減率
売上収益	2,616億円	2,890億円	▲274億円	▲9.5%
営業利益	229億円	331億円	▲101億円	▲30.7%
税引前利益	244億円	345億円	▲101億円	▲29.3%
親会社の所有者に帰属する 中間利益	179億円	242億円	▲64億円	▲26.3%

当期の経営環境は、自動車市場において地域ごとの強弱はあるものの底堅い需要が見られました。

その一方で、半導体・電子部品向けの需要については回復基調ながら想定より緩やかなものとなりました。

また、製造業全般における設備投資の需要は総じて底堅く推移しましたが、中国の需要は想定よりも低調となりました。

このような中、当社グループの業績は、高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ、モーションコントロールを中心に減収となりました。

利益面については、間接費の抑制に努めたものの、売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け、減益となりました。

売上収益は前年同期比9.5%減の2,616億円、  
営業利益は30.7%減の229億円、  
税引前利益は29.3%減の244億円、  
中間利益は26.3%減の179億円です。

それでは、次の5ページにお進みください。

## 2024年度 上期 実績 (セグメント別)

- ・モーションコントロールはACサーボを中心に売上減の影響を大きく受け減益
- ・ロボットは自動車市場や一般産業分野の底堅い需要が寄与も、中国の投資抑制により若干の減収。先行投資や売上減の影響などにより減益

	2024年度 上期		2023年度 上期		前年 同期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位：億円)						
<b>売上収益</b>	<b>2,616</b>		<b>2,890</b>		<b>▲274</b>	<b>▲9.5%</b>
モーションコントロール	1,194		1,408		▲213	▲15.1%
ロボット	1,121		1,124		▲3	▲0.2%
システムエンジニアリング	186		231		▲45	▲19.3%
その他	115		128		▲14	▲10.6%
<b>営業利益</b>	<b>229</b>	<b>8.8%</b>	<b>331</b>	<b>11.4%</b>	<b>▲101</b>	<b>▲30.7%</b>
モーションコントロール	110	9.2%	202	14.4%	▲92	▲45.5%
ロボット	106	9.5%	130	11.6%	▲24	▲18.5%
システムエンジニアリング	19	10.1%	14	6.0%	+5	+34.4%
その他	8	7.3%	0	0.1%	+8	-
消去または全社	▲14	-	▲15	-	+2	-

セグメント別の業績です。

モーションコントロールは、ACサーボモータ・コントローラ事業を中心に売上減少の影響を大きく受け、減益となりました。

ロボットは、自動車市場や一般産業分野の底堅い需要が寄与しましたが、中国における投資抑制の影響を受け、若干の減収となりました。利益面については先行投資や売上減少の影響などにより減益となりました。

なお、“売上収益における為替の影響”は全社でプラス162億円でした。

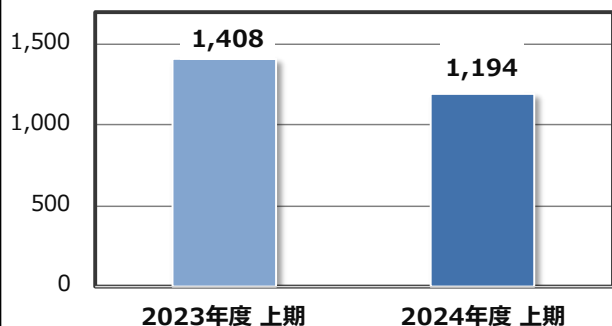
内訳として、モーションコントロールでプラス80億円、ロボットでプラス77億円、システムエンジニアリングでプラス3億円、その他でプラス1億円です。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の6ページへお進み下さい。

# 主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



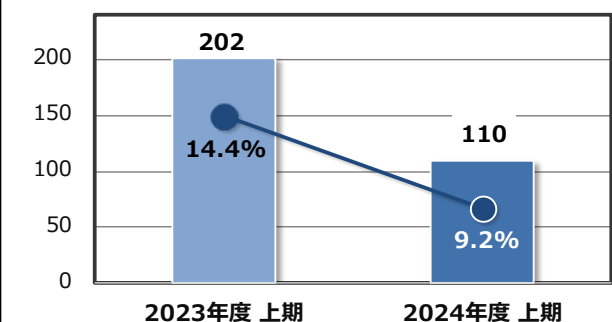
## 【売上収益】

- ACサーボは中国・欧州市場の低迷や、日本における半導体関連需要の回復遅延などの影響を受け減収
- インバータはデータセンタ関連の需要やアセアン各国・インドにおけるインフラ関連需要は底堅く推移も、在庫調整等の影響を受け減収

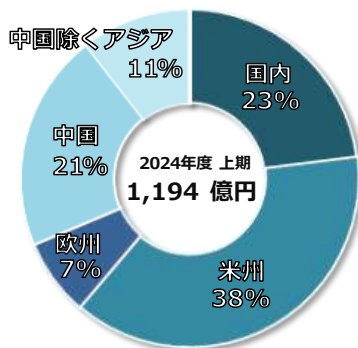
## 【営業利益】

- 経費の抑制、付加価値の改善は進んだものの、売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前年同期比15.1%減の1,194億円、  
営業利益は45.5%減の110億円となりました。

なお、24年度 上期におけるACサーボとインバータの売上収益の比率は、  
ACサーボが47%、インバータが53%です。

ACサーボは中国・欧州市場の低迷や、日本における半導体関連需要の回復遅延などの影響  
を受け売上収益は減少しました。

インバータは、データセンタ関連の需要や、アセアン各国・インドにおけるインフラ関連需要が  
底堅く推移しましたが、在庫調整等の影響を受け販売が伸び悩み、売上収益は減少しました。

利益面については、経費の抑制や、付加価値の改善は進んだものの、  
売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益となりました。

これらの結果、営業利益率は前年同期から約5ポイント悪化の、9.2%となりました。

ご参考として、24年度 上期の所在地別 売上収益 構成比の内訳についてお伝えします。

ACサーボは、

国内26%、米州29%、欧州9%、中国26%、中国除くアジア11%です。

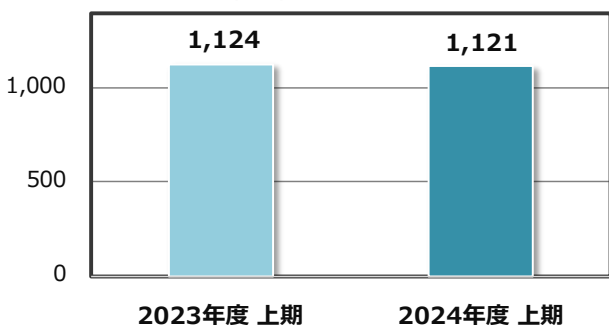
インバータは、

国内21%、米州47%、欧州6%、中国16%、中国除くアジア11%です。

それでは、次の7ページにお進みください。

## 主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



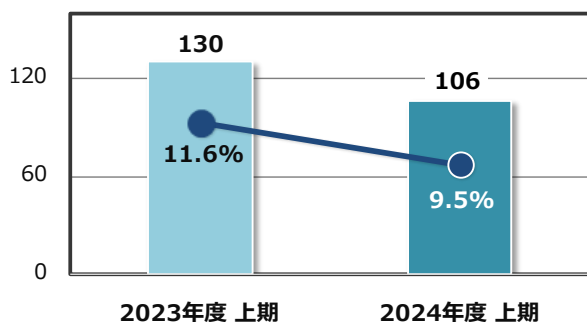
### 【売上収益】

- 自動車市場では、日本や欧米、インドなどで需要が増加
- 一般産業分野では、米国や中国において自動化需要が底堅く推移
- 中国の自動車市場における投資抑制の影響を受け、若干の減収

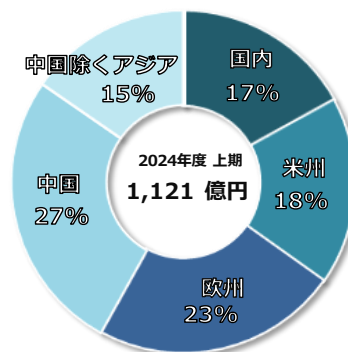
### 【営業利益】

- システム対応力強化に向けた先行投資や、売上減少に伴う利益減の影響などにより減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比0.2%減の1,121億円、  
営業利益は、18.5%減の106億円となりました。

自動車市場においては日本や欧米、インドなどで需要が増加し、  
一般産業分野では米国や中国などで自動化需要が底堅く推移しました。

その一方で、中国の自動車市場において投資抑制の影響を受けたことから、  
売上収益は前年同期比で若干の減少となりました。

利益面については、システム対応力強化に向けた先行投資や、  
売上減少に伴う利益減の影響などにより減益となりました。

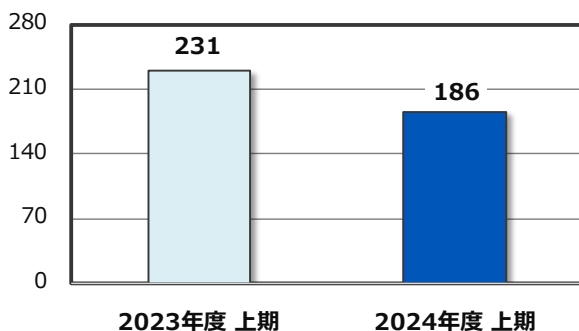
これらの結果、営業利益率は前年同期から約2ポイント低下し、9.5%となりました。

それでは、次の8ページにお進みください。



# 主要事業の概要 システムエンジニアリング

売上収益(億円)



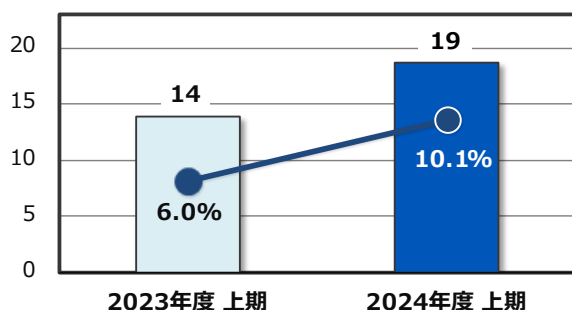
## 【売上収益】

- 港湾クレーン関連の販売が堅調に推移も、前年度下期の大型風力発電関連の子会社売却影響により減収

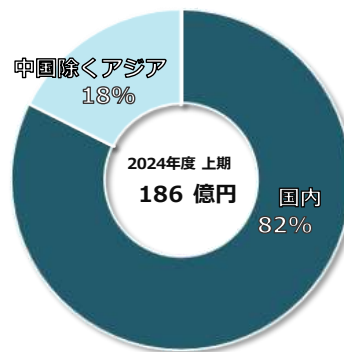
## 【営業利益】

- 主力の鉄鋼・クレーンなどの売上増加に加え、事業構造改革の効果などにより増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



システムエンジニアリングの状況です。

売上収益は、前年同期比19.3%減の186億円、  
営業利益は、34.4%増の19億円となりました。

港湾クレーン関連の販売が堅調に推移しましたが、  
前年度下期の大型風力発電関連の子会社売却影響により、  
売上収益は前年同期比で減少しました。

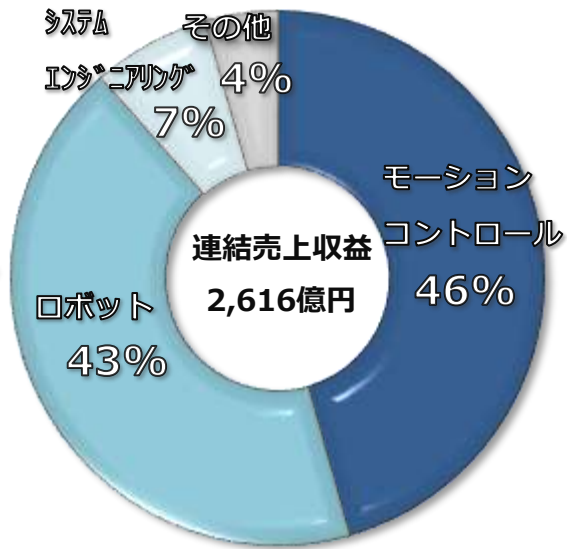
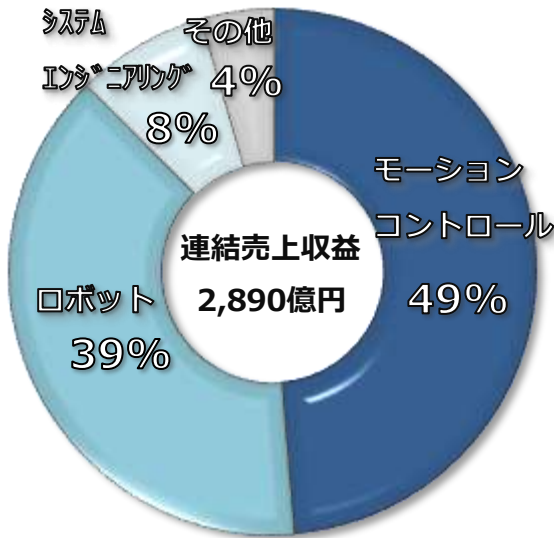
利益面については、主力の鉄鋼・クレーン関連の売上増加に加え、  
事業構造改革の効果により、大幅な増益となりました。

これらの結果、営業利益率は前年同期から約4ポイント改善の10.1%となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。

2023年度 上期

2024年度 上期



セグメント別の売上収益 構成比です。

前年同期に対し、モーションコントロールが3ポイント、システムエンジニアリングが1ポイント、それぞれ減少した一方で、ロボットが4ポイント増加しました。

これらの結果、モーションコントロールは46%、ロボットは43%、システムエンジニアリングは7%の構成比となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。

## 所在地別売上収益

・米州・中国除くアジア以外の地域は減収

(単位：億円)	2024年度	2023年度	前年同期比	
	上期実績	上期実績	増減額	増減率
売上収益	2,616	2,890	▲274	▲9.5%
国内	715	818	▲103	▲12.6%
海外	1,901	2,072	▲171	▲8.2%
米州	659	636	+23	+3.6%
欧州	348	458	▲110	▲24.0%
中国	564	687	▲122	▲17.8%
中国除くアジア	330	292	+38	+13.1%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。  
米州・中国除くアジア以外の地域は減収となりました。

地域別の状況ですが、  
国内については、一般産業や自動車市場の需要は底堅く推移しましたが、  
半導体市場の需要は緩やかな伸びとなりました。

米州は、半導体関連需要が順調に回復し、自動車市場や一般産業分野においても  
底堅い設備投資の動きが見られました。

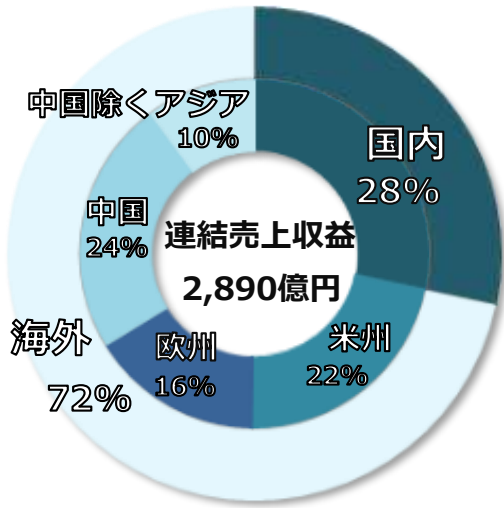
欧州では、自動車市場においてロボットの設備投資が堅調に推移した一方、  
製造業全般における需要低迷と在庫調整の影響を大きく受けました。

中国は、太陽光発電用パネル関連の投資の一巡に加え、内需の鈍化により  
全体的な設備投資需要は低迷しました。

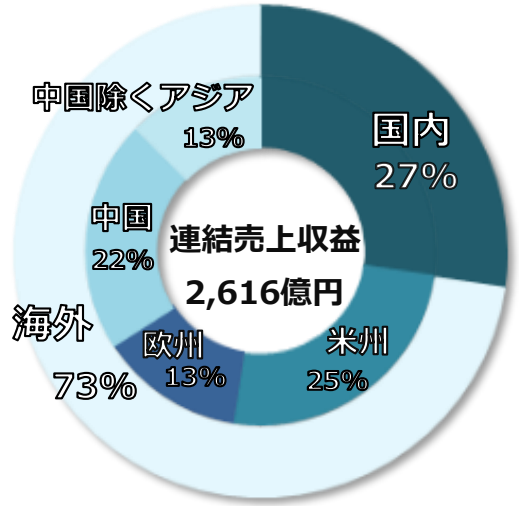
中国除くアジアについては、韓国・台湾にて半導体関連需要の回復が継続しました。  
また、アセアン各国やインドでは、インフラ関連の設備需要が堅調に推移しました。

それでは、次の11ページにお進みください。

2023年度 上期



2024年度 上期



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益 構成比は、海外が前年同期から1ポイント増加の73%に、国内が1ポイント減少の27%となりました。

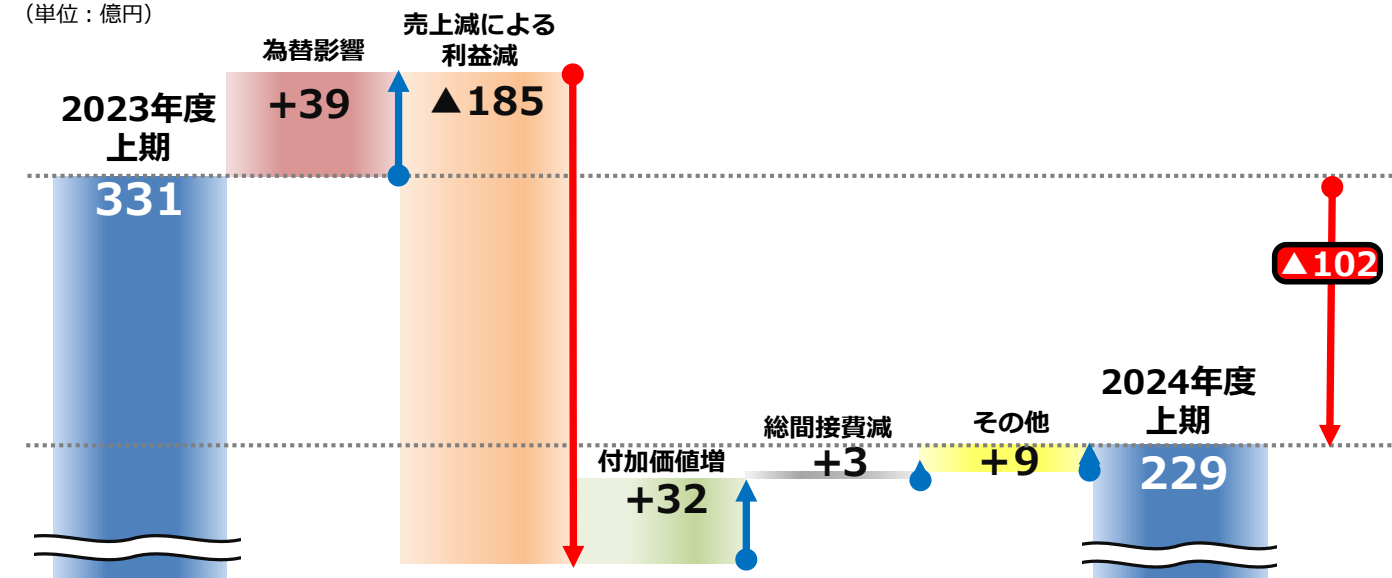
海外の内訳として、中国が2ポイント、欧州が3ポイントそれぞれ減少した一方で、米州と中国除くアジアがともに3ポイント増加しました。

海外においては、米州の構成比が増加し、売上収益が一番大きな地域となっています。

それでは、次の12ページにお進みください。

# 営業利益増減要因分析（2023年度 上期 → 2024年度 上期）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 17	▲ 151	+ 26	+ 17	▲ 0
ロボット	+ 22	▲ 40	▲ 1	▲ 7	+ 1
システムエンジニアリング	+ 0	+ 9	▲ 1	▲ 3	▲ 1
その他	+ 0	▲ 3	+ 8	▲ 4	+ 9

**YASKAWA** © 2024 YASKAWA Electric Corporation

12

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年同期の331億円から102億円減少し、229億円となりました。

為替による影響は、ドルをはじめ各通貨が円安に推移し、プラス39億円。

売上減による利益減は、主にモーションコントロールの減少が影響し、マイナス185億円。

付加価値の増加はプラス32億円。

主な内訳として、モーションコントロールの新製品切り替え効果や、部品の内製化効果が含まれています。

総間接費の減少による影響はプラス3億円。

賃金改善などで労務費が増加した一方、外注費などの活動費の削減を進めました。

最後の「その他」はプラス9億円です。

これには、前年度に一時的に発生した固定資産の除却損がなくなった影響や、開発計画に伴う北九州市への一部土地の売却を行った影響が含まれています。

それでは、次の13ページにお進みください。

### ▶ “i<sup>3</sup>-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

#### → 生産力の強化

- ▶ ロボット第1工場にMOTOMAN NEXTを導入し、自動化やデータ活用による生産性改善を実現（シザーズギア<sup>※1</sup>組立工程）
- ▶ 欧州地域でのロボット生産体制の強化を決定（スロベニア）

- ・ロボットシステム工場の移転拡張
- ・ERDC(EMEA ロボティクス ディストリビューションセンタ)の新設

#### → 販売力の強化

- ・自動車関連市場で多用されるジェイテクト製PLCとの親和性を高めた新マシンコントローラ「MPX1012J」を発売開始
- ・「FOOMA JAPAN 2024<sup>※2</sup>」に出展し、MOTOMAN NEXTや食品仕様ロボットを活用した食品製造の自動化とデータ活用の価値を訴求



シザーズギア組立工程  
Before/After

### ▶ メカトロニクス応用領域の事業拡大によるサステナブルな社会実現への貢献

- ・アステラス製薬とバイオ向け双腕ロボット「まほろ」を活用した革新的な細胞医療プラットフォームの構築に向けた覚書を締結

<https://www.yaskawa.co.jp/newsrelease/news/1223302>

<sup>※1</sup> 騒音抑制とスムーズな動力伝達を目的として使用されるギヤ。ギヤの間の隙間をなくすことでガタつきを抑え、振動や騒音を低減させる仕組み。

<sup>※2</sup> 一般社団法人日本食品機械工業会が主催する、食品製造に関わる製品・ソリューションの展示会



マシンコントローラ  
「MPX1012J」

上期の取り組みです。

生産力の強化では、北九州市の本社ロボット工場に、MOTOMAN NEXTを導入し、生産性の改善を進めています。

これまで人手に頼らざるを得なかったシザーズギア組立工程を、データ収集と分析、つまり、デジタルツインを実現することによって、組立ミスの感知からリトライまでを自律的に行い、大幅な生産性向上を実現しています。当社のソリューションコンセプト「i<sup>3</sup>-Mechatronics」の実践そのものです。

また、スロベニアのロボット工場においては、システムエンジニアリング力の強化や、ディストリビューションセンタの新設を進め、欧州におけるロボット生産体制の強化を加速しています。

販売力の強化では、マシンコントローラ「MPX1012J」を新しく市場投入しました。自動車関連の製造装置などで多用されるPLCとの親和性を強化しています。

また、今年6月にはFOOMAジャパンに出展し、MOTOMAN NEXTを活用した食品業界における自動化やデータ活用によるフードロスの削減などを積極的に提案しています。

メカトロニクス応用領域の事業拡大については、今年5月にアステラス製薬との間で覚書を締結し、バイオメディカル向けのロボットである「まほろ」を活用した、新しい細胞医療プラットフォームの創出を加速しています。

15ページへお進みください。

## 2. 2024年度 通期 連結業績見通し

## 2024年度 通期 見通し

- ・半導体市場の立ち上がりが緩やかであり、中国市場の回復が弱いことから売上収益・営業利益を下方修正
- ・持分法適用関連会社の一部株式譲渡に伴う株式譲渡益等により税引前利益・当期利益を上方修正

	2024年度	2023年度	前年同期比		2024年度 前回見通し※
	見通し		実績	増減額	
売上収益	5,530億円	5,757億円	▲227億円	▲3.9%	5,800億円
営業利益	640億円	662億円	▲22億円	▲3.4%	700億円
税引前利益	898億円	691億円	+207億円	+30.0%	740億円
親会社株主に帰属する 当期利益	640億円	507億円	+133億円	+26.3%	540億円

※2024年4月5日 FY23 4Q決算発表時

2024年度 通期の業績見通しです。

半導体・電子部品市場の立ち上がりが想定以上に緩やかであることに加え、中国市場全般の回復が想定より弱いことから、売上収益ならびに営業利益を下方修正いたします。

一方、税引前利益・当期利益については、持分法適用関連会社の一部株式譲渡に伴う株式譲渡益などにより上方修正いたします。

なお、こちらの詳細につきましては、10月4日公表の「持分法適用関連会社からの除外に関するお知らせ」をご覧ください。

これらの状況を踏まえ、売上収益は 5,800億円から5,530億円に、営業利益は 700億円から640億円に、税引前利益は740億円から898億円に、当期利益は 540億円から640億円に、それぞれ修正いたします。

なお、24年度下期における想定為替レートは、従前より変更なく、ドルで145円、ユーロで155円、人民元で20円、韓国ウォンで0.11円、と、それぞれ想定しています。

続いて、16ページにお進みください。



## 2024年度 通期 見通し (セグメント別)

(単位: 億円)	2024年度		2023年度		前年同期比		2024年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し*	利益率
<b>売上収益</b>	<b>5,530</b>		5,757		<b>▲227</b>	<b>▲3.9%</b>	5,800	
<b>モーションコントロール</b>	<b>2,492</b>		2,694		<b>▲202</b>	<b>▲7.5%</b>	2,688	
<b>ロボット</b>	<b>2,405</b>		2,347		<b>+58</b>	<b>+2.5%</b>	2,451	
<b>システムエンジニアリング</b>	<b>385</b>		461		<b>▲76</b>	<b>▲16.4%</b>	398	
<b>その他</b>	<b>248</b>		255		<b>▲7</b>	<b>▲2.7%</b>	263	
<b>営業利益</b>	<b>640</b>	<b>11.6%</b>	662	11.5%	<b>▲22</b>	<b>▲3.4%</b>	700	12.1%
<b>モーションコントロール</b>	<b>317</b>	<b>12.7%</b>	390	14.5%	<b>▲73</b>	<b>▲18.7%</b>	369	13.7%
<b>ロボット</b>	<b>291</b>	<b>12.1%</b>	251	10.7%	<b>+40</b>	<b>+15.9%</b>	300	12.2%
<b>システムエンジニアリング</b>	<b>44</b>	<b>11.5%</b>	49	10.5%	<b>▲4</b>	<b>▲8.6%</b>	56	14.0%
<b>その他</b>	<b>19</b>	<b>7.7%</b>	4	1.6%	<b>+15</b>	<b>+356.7%</b>	5	1.9%
<b>消去または全社</b>	<b>▲32</b>	<b>-</b>	<b>▲32</b>	<b>-</b>	<b>+0</b>	<b>-</b>	<b>▲30</b>	<b>-</b>

※2024年4月5日 FY23 4Q決算発表時

セグメント別の通期見通しです。

足元の需要動向等を考慮し、次の通り修正します。

モーションコントロールについては  
売上収益は前回予想の2,688億円から2,492億円に、  
営業利益は369億円から317億円に、  
修正します。

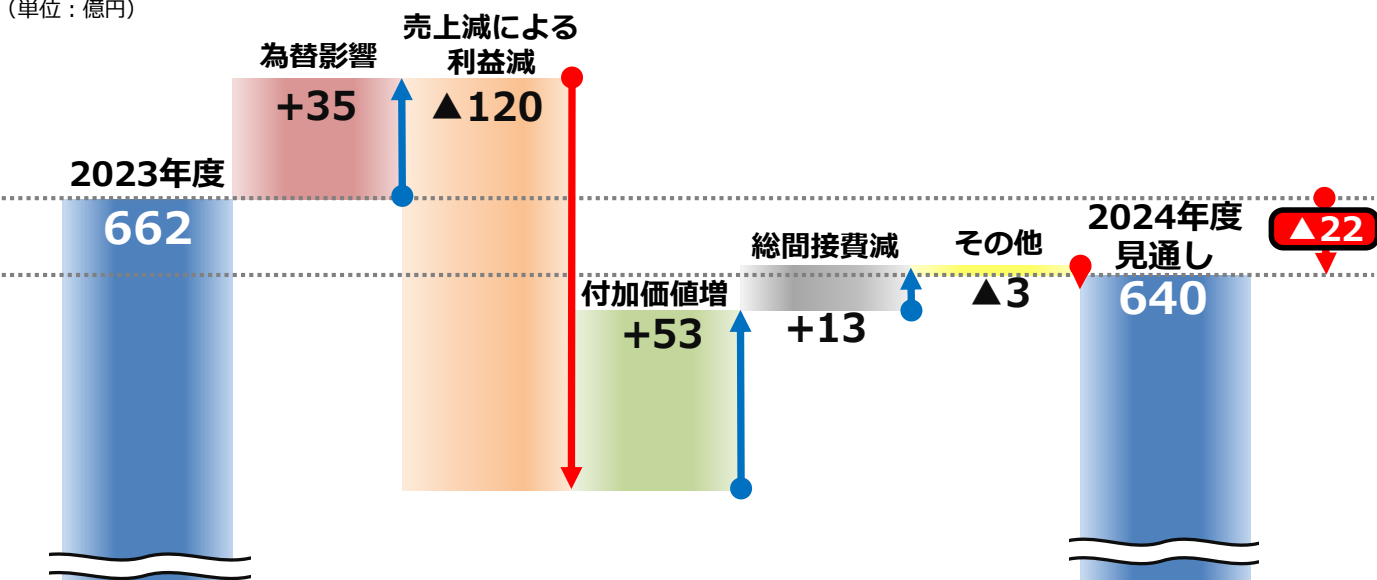
ロボットについては、  
売上収益は2,451億円から2,405億円に、  
営業利益は300億円から291億円に、  
修正します。

システムエンジニアリングについては、  
売上収益は398億円から385億円に、  
営業利益は56億円から44億円に、  
修正します。

それでは、次の17ページにお進みください。

# 営業利益増減要因分析（2023年度 → 2024年度見通し）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 14	▲ 143	+ 34	+ 25	▲ 3
ロボット	+ 21	+ 13	+ 8	▲ 6	+ 5
システムエンジニアリング	+ 0	+ 15	▲ 2	▲ 3	▲ 15
その他	+ 0	▲ 5	+ 13	▲ 3	+ 10

通期見通しにおける営業利益増減要因分析です。

2024年度の営業利益は、前年度の662億円から22億円減少の640億円を計画しています。

為替による影響は、上期に引き続き円安の影響を想定しプラス35億円。

売上減による利益減はマイナス120億円。  
モーションコントロールを中心に大きく減少する計画です。

付加価値の増加はプラス53億円。  
主な内訳として、上期に引き続き、モーションコントロールの新製品切り替え効果や、モーションコントロールとロボットにおける部品の内製化効果が含まれています。

総間接費の減少は、プラス13億円。  
賃金改善により労務費の増加を織り込みますが、中国・欧州を中心に活動費を抑制します。

最後の「その他」はマイナス3億円。  
12ページにて説明しました内容に加え、  
子会社の株式売却益などが無くなった影響や  
欧州再編に係るコスト、中国での補助金収入などを織り込んでいます。

それでは、18ページにお進みください。

### ▶ “i<sup>3</sup>-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

#### ➔ 生産力の強化

- ・ YRMコントローラやMOTOMAN NEXT等を活用した自社工場における自動化・省人化・内製化の推進と海外生産拠点への展開

#### ➔ 販売力の強化

- ・ シカゴ(米国)にて「IMTS 2024<sup>※1</sup>」に出展、iC9000シリーズ<sup>※2</sup>を北米市場に訴求し新規顧客を開拓
- ・ 食品や医療分野におけるMOTOMAN NEXT導入事例の積み上げと横展開
- ・ インド市場(HVAC、オイル・ガス等)におけるインバータの拡販加速



YRMコントローラが導入された子会社工場の生産ラインの様子



IMTS 2024 iCube Control  
ローンチイベントの様子

### ▶ メカトロニクス応用領域の事業拡大による サステナブルな社会実現への貢献

- ・ バイオメディカル向けロボット「まほろ」のソリューション展開による細胞研究開発・製造支援サービスの拡大加速



バイオメディカル向け  
双腕ロボット「まほろ」

<sup>※1</sup> International Manufacturing Technology Showの略。

The Association For Manufacturing Technologyが主催する2年に1度のオートメーション・スマート生産ソリューションの展示会

<sup>※2</sup> i<sup>3</sup>-Mechatronicsを実現するコントローラソリューション「iCube Control」に属する欧米向けのコントローラ

2024年度下期における取り組みです。

生産力の強化については、当社国内グループの工場において、YRMコントローラやMOTOMAN NEXTなどを活用した生産ラインの自動化、省人化、

そして、内製化を加速していきます。

これらの取組みは、海外の生産拠点にも順次展開し、需要の変動に対し、柔軟に対応できるロバストな生産体制を、グローバルで構築していきます。

販売力の強化では、9月にアメリカ・シカゴで行われた「IMTS 2024」において、当社のソリューションコンセプト「i<sup>3</sup>-Mechatronics」を実現するために開発したコントローラである「iC9000シリーズ」の発表を行いました。

北米市場における新規顧客の開拓に取り組んでいきます。

また、未自動化領域におけるMOTOMAN NEXTの導入にも積極的に取り組みます。現在、食品や医療分野において複数のプロジェクトを抱えており、これらの本格導入に向けた活動を確実に実行するとともに、その成功事例を横展開することによって、新しい自動化領域の開拓を加速します。

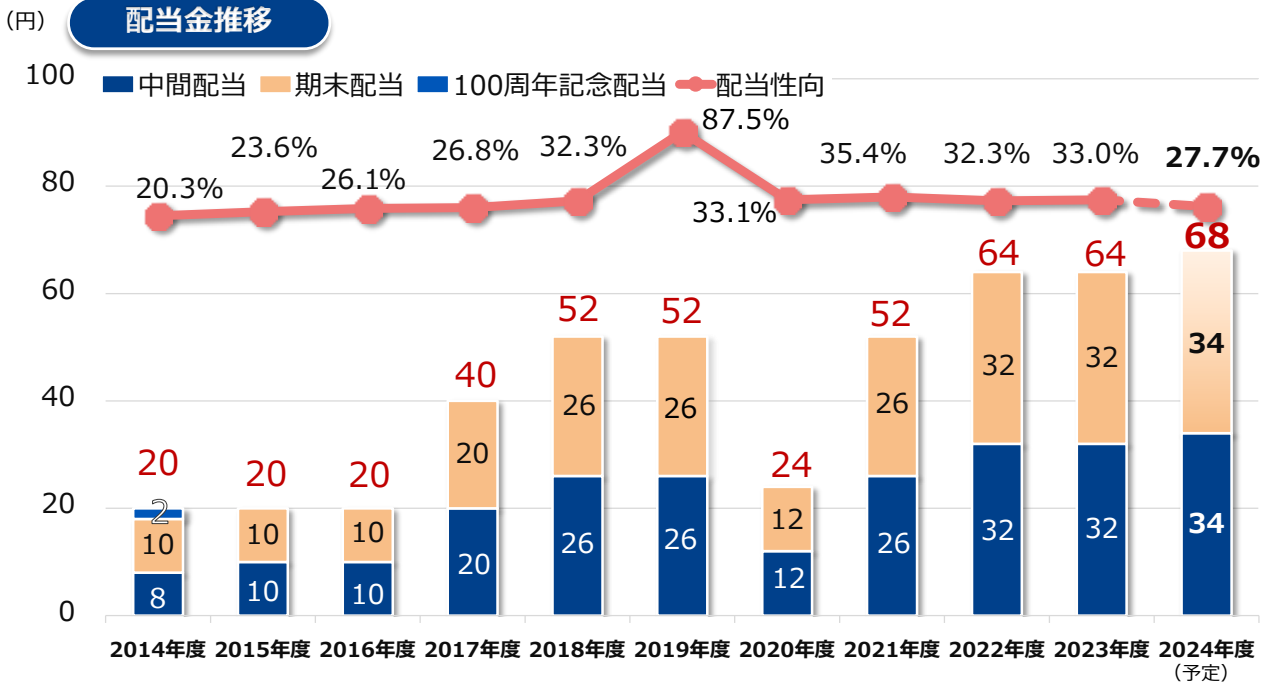
さらに、成長著しいインド市場においては、HVACやオイル・ガス関連市場などにおけるインバータ需要を確実に捕捉していきます。

メカトロニクス応用領域の事業拡大については、上期に発表いたしましたバイオメディカル向けロボット「まほろ」を用いた細胞研究開発・製造支援サービスを具体化し、「まほろ」ソリューションの展開を拡大させていきます。

次の19ページへお進みください。

## 株主還元（配当金推移）

- ・ 自己株式250万株（最大125億円）の取得を実施
- ・ 2024年度は前年度から4円増配となる、一株当たり年間68円/株を予定（総還元性向47.3%）



株主還元についてご説明いたします。

先ほどご説明の通り、持分法適用関連会社の一部株式譲渡に伴う株式譲渡益などが発生する見込みであるため、『市場買付による自己株式の取得』と『子会社との相対取引による自己株式の取得』を行い、株主還元・資本効率の強化を図ります。

これらの自己株式取得を合算した株式総数は250万株、取得価額の総額は125億円となります。

こちらの詳細につきましては、10月4日公表の「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」をご覧ください。

また、今年度の中間配当は、2024年4月5日に公表のとおり、一株当たり34円といたしました。

期末配当につきましては、従来予想を据え置き、一株当たり34円とさせていただきます。

これらの結果、年間配当は前年度から4円増配となる68円を計画し、配当性向は27.7%となる見込みです。

なお、先ほどの自己株式の取得と、配当金を合算した総還元性向は47.3%になる見込みです。

22ページへお進みください。

## **3. 参考資料**

# セグメント区分変更による組替表示（2023年度実績）

- 2024年度より従来システムエンジニアリング事業に含めていた太陽光発電用パワーコンディショナ関連の情報を、モーションコントロール事業に移行する**セグメント区分の見直し**を実施
- 2024年度・2023年度の数値は、セグメント変更後の情報にて表示

## 2023年度（セグメント変更後）

(単位：億円)	2023年度（セグメント変更後）							変更 影響額 (通期)
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
<b>売上高</b>	1,425	1,465	<b>2,890</b>	1,354	1,513	<b>2,867</b>	<b>5,757</b>	-
モーションコントロール	716	691	<b>1,408</b>	638	649	<b>1,287</b>	<b>2,694</b>	<b>+94</b>
ロボット	528	596	<b>1,124</b>	546	677	<b>1,223</b>	<b>2,347</b>	-
システムエンジニアリング	123	108	<b>231</b>	107	123	<b>230</b>	<b>461</b>	<b>▲94</b>
その他	58	70	<b>128</b>	63	63	<b>127</b>	<b>255</b>	-
<b>営業利益</b>	164	166	<b>331</b>	135	197	<b>332</b>	<b>662</b>	-
モーションコントロール	98	104	<b>202</b>	84	104	<b>188</b>	<b>390</b>	<b>+8</b>
ロボット	62	68	<b>130</b>	56	66	<b>122</b>	<b>251</b>	-
システムエンジニアリング	10	4	<b>14</b>	2	33	<b>35</b>	<b>49</b>	<b>▲8</b>
その他	▲0	0	<b>0</b>	1	3	<b>4</b>	<b>4</b>	-
消去または全社	▲6	▲10	<b>▲15</b>	▲7	▲9	<b>▲16</b>	<b>▲32</b>	-

# 設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

## 設備投資・研究開発費の状況

(単位: 億円)

	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (計画)
設備投資額	276.1	378.6	450.0
減価償却費	196.7	208.0	220.0
研究開発投資	187.8	212.5	240.0

## 為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位: 円)

	2022年度 (実績)			2023年度 (実績)			2024年度 (想定)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
対 米ドル	129.9	138.6	134.1	138.8	147.9	143.2	153.7	145.0	149.3
対 ユーロ	136.8	143.0	139.8	151.0	159.3	155.1	166.6	155.0	160.8
対 元	19.59	19.77	19.68	19.61	20.44	20.02	21.23	20.00	20.62
対 ウォン	0.102	0.104	0.103	0.106	0.112	0.109	0.113	0.110	0.111

## 為替感応度

(単位: 億円)

	1%変動による影響額目安 (2024年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.7	2.3
ユーロ	7.3	1.2
元	11.4	2.9
ウォン	4.1	2.1

設備投資・研究開発費の2024年度の計画については、  
足元の事業遂行状況等を鑑み、2024年4月5日に公表した計画を修正いたします。

設備投資については前回計画から30億円増額の450億円、  
研究開発費については20億円増額の240億円となる想定です。

想定為替レートは、先ほどもご説明した通り、従来想定を据え置きます。

27ページへお進みください。

# B/S 構造の推移

## 2024年2月29日時点

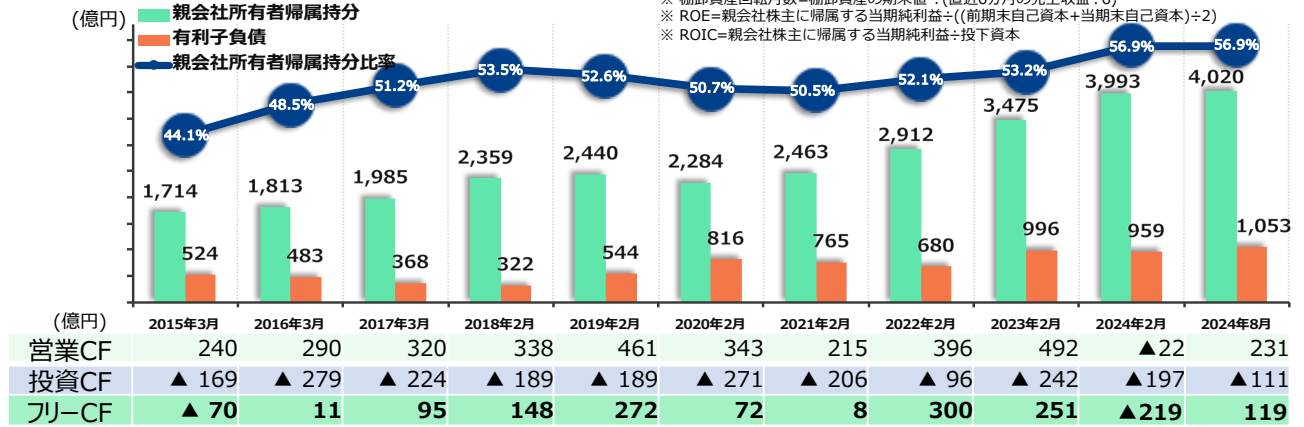
- 親会社所有者帰属持分比率 56.9%
- 親会社所有者帰属持分 3,993億円
- 有利子負債 959億円
- D/Eレシオ 0.24  
(ネットD/Eレシオ) 0.14
- 棚卸資産 (回転月数) 2,079億円 (4.4ヶ月)
- ROE 13.6%
- ROIC 11.8%

## 2024年8月31日時点

- 親会社所有者帰属持分比率 56.9%
- 親会社所有者帰属持分 4,020億円
- 有利子負債 1,053億円
- D/Eレシオ 0.26  
(ネットD/Eレシオ) 0.13
- 棚卸資産 (回転月数) 2,126億円 (4.9ヶ月)



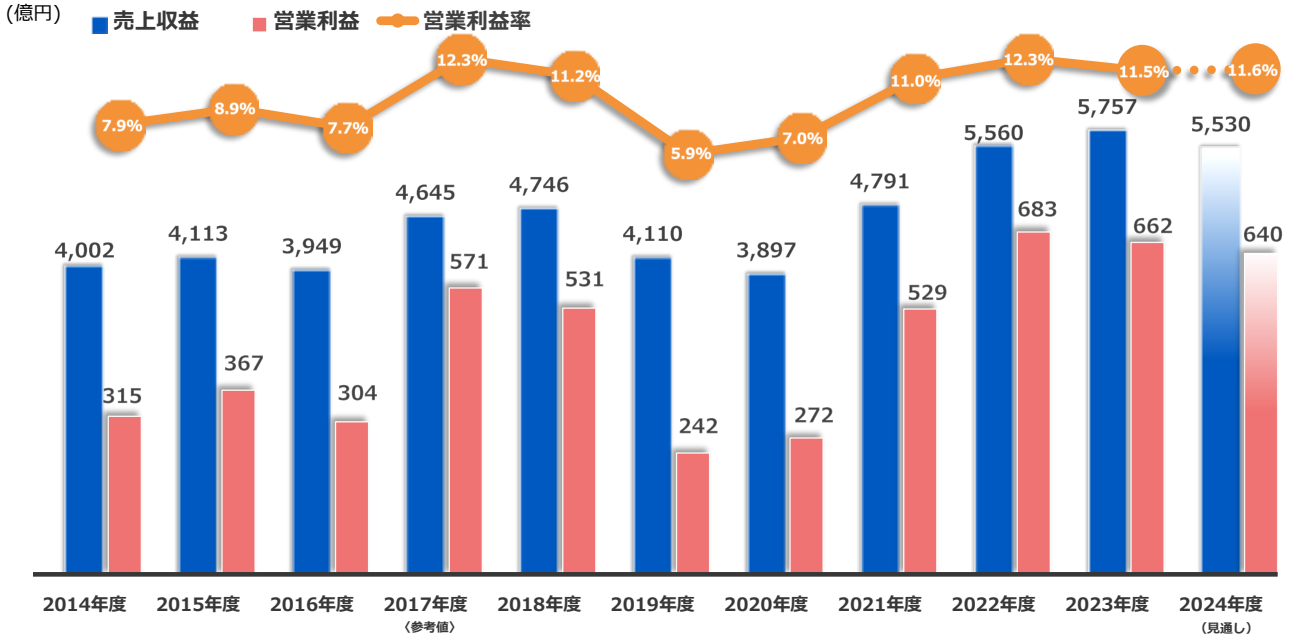
※ 有利子負債はリース債務を含む  
 ※ 棚卸資産回転月数=棚卸資産の期末値÷(直近6カ月の売上収益÷6)  
 ※ ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷((前期末自己資本+当期末自己資本)÷2)  
 ※ ROIC=親会社株主に帰属する当期純利益÷投下資本



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載



# 売上収益・営業利益推移（2014年度～2024年度見通し）



Realize 100
Dash 25
Challenge 25 Plus
Realize 25

**中期経営計画**

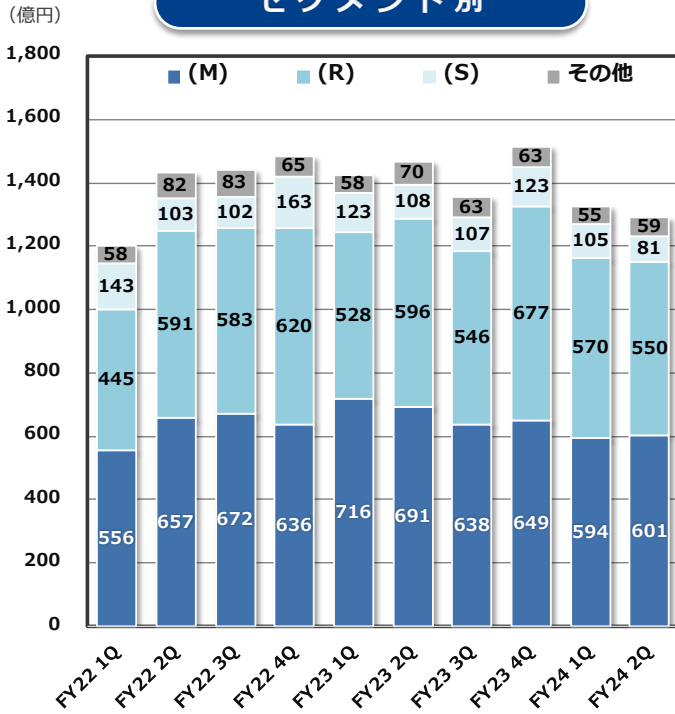
[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載

[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

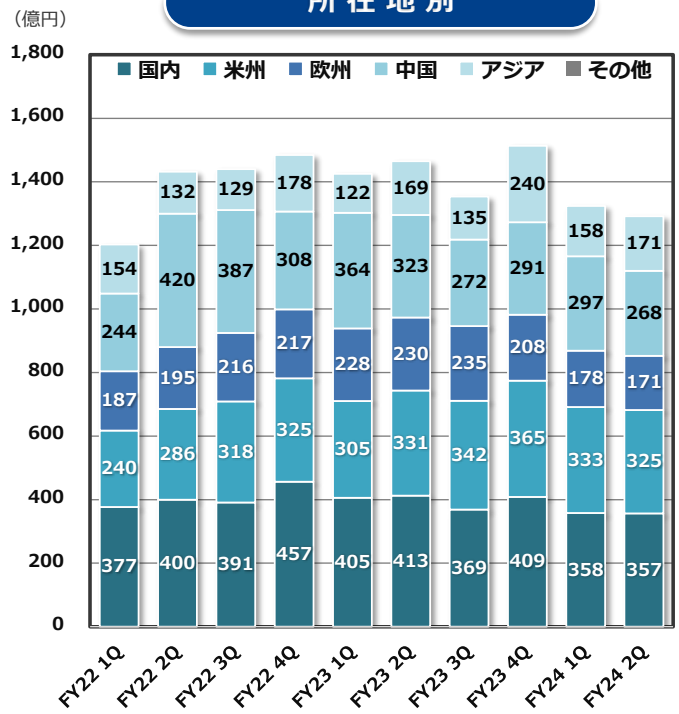
<スキップ>

# 四半期売上収益推移

## セグメント別



## 所在地別



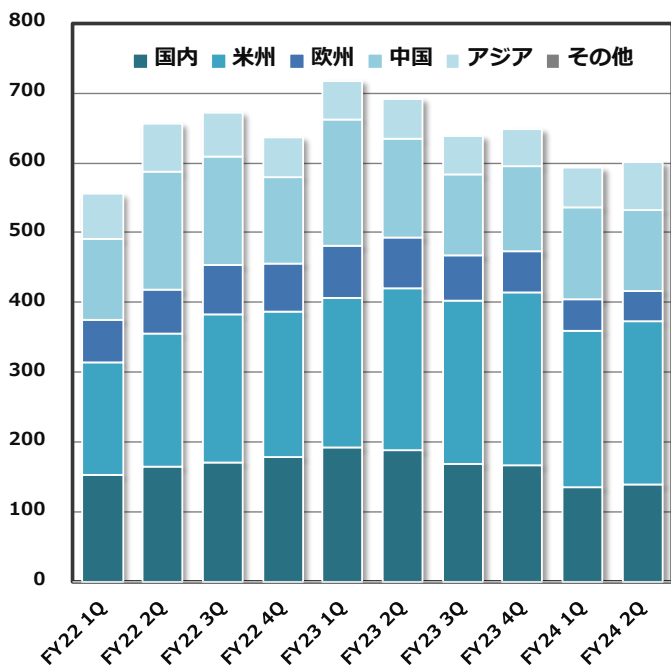
[注. 1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング  
 [注. 2] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

<スキップ>

# 四半期売上収益推移

## モーションコントロール

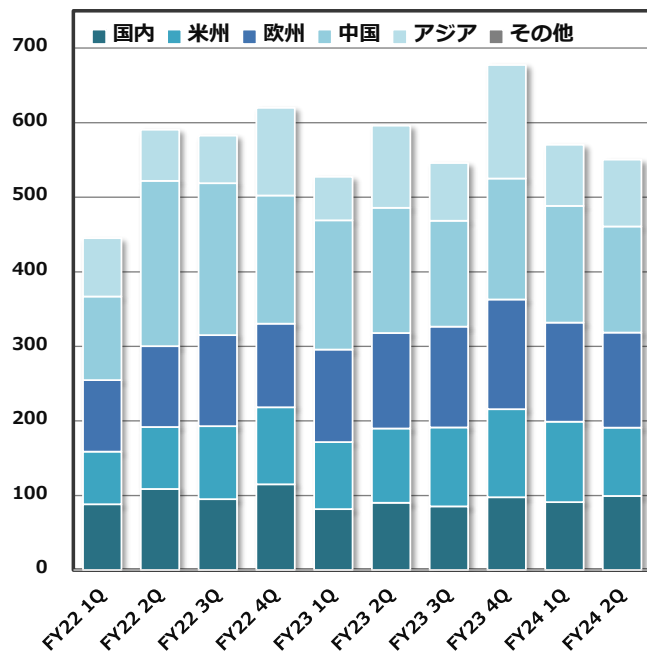
(億円)



[注] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

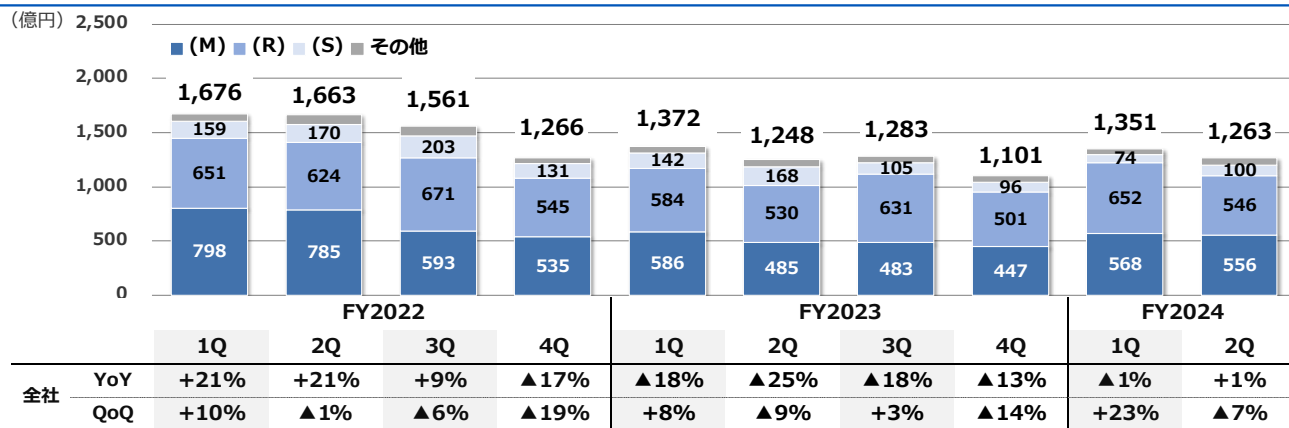
## ロボット

(億円)



# 四半期受注推移（セグメント別）

※為替は期中平均レートを使用



YoY	セグメント	FY2022				FY2023				FY2024	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
YoY	(M)	+7%	+10%	▲21%	▲28%	▲27%	▲38%	▲19%	▲16%	▲3%	+15%
	(R)	+33%	+34%	+42%	▲9%	▲10%	▲15%	▲6%	▲8%	+12%	+3%
	(S)	+48%	+18%	+32%	▲1%	▲11%	▲1%	▲48%	▲27%	▲48%	▲40%

QoQ	セグメント	FY2022				FY2023				FY2024	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
		(M)	+7%	▲2%	▲24%	▲10%	+9%	▲17%	▲0%	▲7%	+27%
(R)	+9%	▲4%	+8%	▲19%	+7%	▲9%	+19%	▲21%	+30%	▲16%	
(S)	+20%	+7%	+19%	▲35%	+8%	+19%	▲37%	▲9%	▲23%	+36%	

為替レート	円/ドル	124.2	135.3	144.3	132.9	134.9	142.5	149.1	146.7	153.2	154.1
	円/ユーロ	134.3	139.3	143.9	142.0	146.1	155.7	159.3	159.4	165.5	167.6

[注. 1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング  
 [注. 2] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

参考情報として開示しております四半期連結受注推移について、今年度 第2四半期のセグメントごとの地域別増減率を次の通りお伝えします。

**ACサーボのYoYは全体で+24%です。**

内訳は、国内+25%、米州+70%、欧州▲2%、中国▲20%、その他アジア+168%です。

**QoQは全体で+3%です。**

内訳は、国内+10%、米州+9%、欧州+18%、中国▲17%、その他アジア+11%です。

**インバータのYoYは全体で+6%です。**

内訳は、国内▲11%、米州▲8%、欧州+0%、中国+44%、その他アジア+42%です。

**QoQは全体で▲7%です。**

内訳は、国内▲1%、米州▲13%、欧州▲31%、中国+1%、その他アジア+6%です。

**ロボットのYoYは全体で+3%です。**

内訳は、国内+26%、米州▲11%、欧州+6%、中国▲5%、その他アジア+6%です。

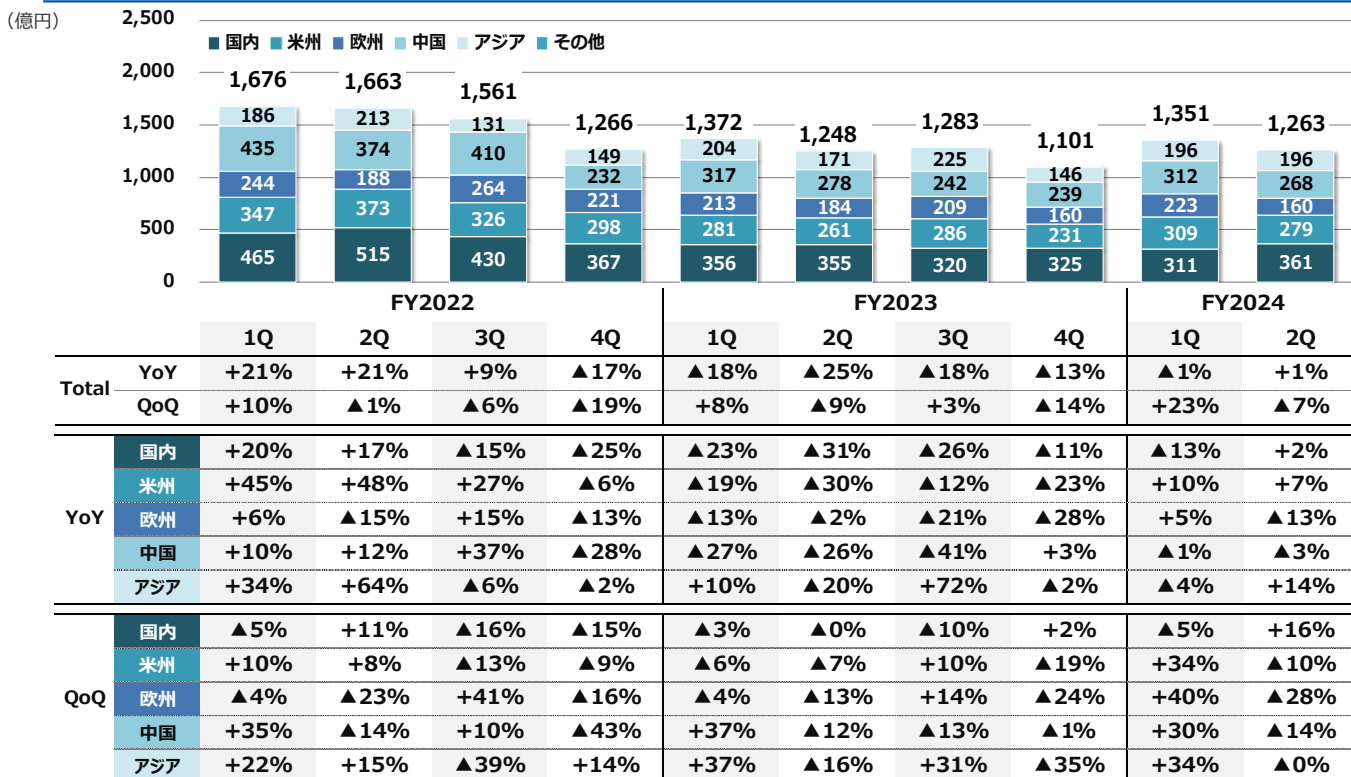
**QoQは全体で▲16%です。**

内訳は、国内+23%、米州▲22%、欧州▲33%、中国▲18%、その他アジア▲11%です。

以上をもちまして、2024年度 第2四半期の業績概要の説明を終わります。ご清聴いただき、ありがとうございました。

# 四半期受注推移 (所在地別)

※為替は期中平均レートを使用



[注] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

# YASKAWA

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>